

科目名 基礎看護技術 時間割表記名 基礎看護技術	配当時期 1年次前期 単位数 1単位 時間数 30時間(16回)	講義担当者 市場 美織 吉竹あゆ 樋口 裕也 濱崎友実 (実務経験のある教員)	
事前学習内容 演習前には各技術の動画を視聴する。 バイタルサイン測定は、呼吸・循環・皮膚に関する解剖生理の学習を事前にレポートにまとめる。 バイタルサイン測定は、看護機能形態学の学習を復習して臨む。			
授業目標 1. 対象との関係形成のためのコミュニケーション技術を実践できる。 2. あらゆる健康状態にある対象の安全を守るために必要な基礎的知識を理解し、技術を実践できる。 3. さまざまな健康レベルにある人に適切な看護を行うために、生命の徴候を正しく把握するために必要な知識を理解し、技術を実践できる。			
DPとの関連 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。 DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。 DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる。			
授業の流れ			
回	学習内容	方法	備考
1	看護技術とは 1)看護技術の特徴 2)看護技術の範囲 3)看護技術を適切に実践するための要素 4)看護技術の発展と修得のために 5)看護技術の原則(安全・安楽・自立)	講義	テキスト①②資料
2	コミュニケーションの意義と目的 1)コミュニケーションの定義や看護における意義 2)看護・医療におけるコミュニケーション	講義	テキスト①②資料
3	コミュニケーションの構成要素と成立過程 1)コミュニケーションの手段 2)コミュニケーションの要素とプロセス 3)ミスコミュニケーション	講義	テキスト①②資料
4	関係構築のためのコミュニケーションの基本 1)基本的な態度 2)接近的行動と非接近的行動 (1)看護専門職としての応答能力	講義 演習	テキスト①②資料
5	コミュニケーションの実際 1)地域の方とのコミュニケーション	演習	テキスト①②資料
6	感染防止の技術 1)感染の成立と予防 2)標準予防策(スタンダードプリコーション) 3)感染経路別予防策	講義	テキスト①②資料

	(1)接触予防策 (2)飛沫予防策(3)空気予防策 4) 洗浄・消毒・滅菌 (1)手洗い (2)消毒 (3)滅菌法 5)感染性廃棄物の取扱い (1)判断基準 (2)分別・表示 (3)取扱い時の注意点		
7	標準予防策(スタンダードプリコーション)の実際 ①手洗い②手指消毒③防護用具の着脱 【スタンダードプリコーション】	演習(技術)	テキスト①②資料
8	無菌操作	講義	テキスト①②資料
9	(1)滅菌バッグの開封 (2)鉗子・鑷子の取り扱い (3)滅菌物の取り出し方 (4)滅菌手袋の着用 (5)滅菌ガウンの着用 【滅菌物の取り扱い】	演習(技術)	
10	バイタルサインとは バイタルサインを観察する意義 バイタルサインの測定の実際 1)意識に関する基礎知識 2)体温維持に関する基礎知識と体温測定の実際 3)脈拍に関する基礎知識と脈拍測定の実際	講義	テキスト①②資料
11	バイタルサインの測定の実際 4)呼吸に関する基礎知識と呼吸の観察の実際 5)血圧に関する基礎知識と血圧測定の実際	講義	テキスト①②資料
12	看護記録 1)看護記録の法的規定 2)看護記録の目的と機能 3)記録物の管理と取り扱いとその重要性 4)看護記録の要素・種類・記載上の注意点 【経過表】	講義 演習	テキスト①②資料 * 45分
13	バイタルサイン測定の筆記試験(15分)	試験(筆記)	テキスト①②資料
14	バイタルサイン測定の実際	演習(技術)	
15	コミュニケーション・感染防止の筆記試験(45分)	試験(筆記)	
16	技術試験(バイタルサイン測定)	試験(技術)	
<b>受講上の注意</b> ○技術が習得できるように各自で練習を行う。 ○演習は事前学習を行って参加する。			<b>評価方法</b> 筆記試験 技術試験
<b>使用するテキスト</b> ①系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術 I 医学書院 ②看護技術プラクティス 第4版 学研 ③山内豊明 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 <b>参考文献</b> ①系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院 ③看護形態機能学 第4版 日本看護協会出版会			

